「陵南小学校の玉利の棒踊り伝承活動の取組」

１　学校名

霧島市立陵南小学校

２　学年・人数

小学５・６年　（計103人）

３　日時・場所

⑴　練習の日時・場所

陵南小学校体育館（７月～９月下旬），運動会前の体育学習・総合的な学習の時間

⑵　発表の日時・場所

陵南小学校秋季大運動会（９月22日）

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

⑴　名称

玉利の棒踊り（たまりのぼうおどり）

⑵　由来

「玉利の棒踊り」は，明治時代ごろから「五穀豊穣」と牛や馬の「病気退治」を願い，神社に奉納しながら踊ってきた伝統芸能である。この棒踊りでは，他の地方・地域で一般的に使用されている「六尺棒」ではなく「ナタ」と「カマ」を使用して踊る。踊りは勇ましく躍動的で「ナタ」と「カマ」を「カチッ」と打ち合い，火花を散らし，「踊る人」・「見る人」の意気込みを高め，心をなごませてくれるのが特徴である。

⑶　構成等

まず二列縦隊で並んだ「ナタ」の列と「カマ」の列が歌者の節回しにあわせて正面を向いて踊り始める。その後，節が進むにつれて「ナタ」と「カマ」が向かい合い「ナタ」と「カマ」をぶつけ合いながら踊る。そして，後半部分では，前後左右の四人組にもなり，動きがどんどん勇壮になっていく。運動会では入退場や場所移動に和太鼓の「ドンドンドン‥‥」という響きを取り入れている。

５　保存会や地域との連携の具体

「玉利の棒踊り」は，昭和30年以前は毎年のように近辺の神社や「田の神様」に奉納されていたが，踊り手が徐々に減り，いつのまにか廃れてしまった。昭和42年に一度復活したが，最近まで40年以上，棒踊りは途絶えたままであった。これまでの経緯を踏まえ，平成20年５月に会員25名（55歳～80歳）で「玉利の棒踊り保存会」を発足し，長年途絶えていた棒踊りを40年ぶりに復活させた。会員の皆さん方は40年前の青年時代に棒踊りを経験された有志の集まりである。また，保存会では棒踊りの保存・伝承活動のために，年３回の奉納や披露などを計画している。12月上旬には，年間行事の一つである地区内の「田の神様」へ，五穀豊穣の感謝と祈願を込め棒踊りを奉納した。この奉納では，昔ながらの「かしわ刺身」，「かしわずし」，「煮しめ」などのお供え物が料理され，

奉納後にはこのお供え物で懇親会を開催し，会員相互の和や伝承活動への意欲が一層高まった。

しかし，保存会への若い人たちの加入はほとんどなく，現在の会員は高齢のため，保存伝承活動が危ぶまれる現状で苦労していた。そのような中，平成24年の陵南小学校運動会で，５・６年生全員で「玉利の棒踊り」を地域伝統芸能の表現として，踊り始めたことで，伝承活動に明るい兆しが見えてきた。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために，７月には初めて棒踊りを踊る５年生に対して，保存会の方や６年生から間近に「棒踊り」を見せてもらい，全体的な流れと「棒踊り」への意欲を高めている。その後９月に入ると総合的な学習の時間や体育の授業として５・６年合同で「棒踊り」の練習に取り組む。「ナタ」として踊るか「カマ」として踊るかについては本人の希望を大切にしながら，それぞれの所作に合った方で踊るようにしている。基本５年生時に選択したものを２年間踊るようにしており，保存会の皆さんも輪番で学校での練習(週１回程度)を観てもらい踊りにみがきをかけている。

平成25年からは踊り手だけでなく，祖父から孫への「歌者の伝承」として祖父・孫での歌披露にも取り組んでいる。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

体育館での練習風景

秋季大運動会での発表風景

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

地域伝統芸能である「玉利の棒踊り」を５・６年生全員で練習し，運動会本番で保護者や地域の方々に披露することが，子どもたちにとって大変貴重な経験となっています。玉利棒踊り保存会の方々に御指導いただくことで，細かい動きや声の出し方を理解することができ，また，自信を持って披露することができます。今後は，運動会だけでなく，玉利棒踊り保存会の方々が玉利で行っている田の神様奉納に，子どもたちも参加することを検討しています。将来，地元を離れて生活する子どももいると思います。地元を思い出すときに，この「玉利の棒踊り」も思い出してほしいという思いを持ちながら，今後も指導していければと考えています。